

校内研修計画

甲州市立井尻小学校

1 学校課題

本校の児童は、明るく素直で、休み時間になると活発に外遊びをする児童が多い。学習面では、家庭学習の習慣が身に付いている児童が多く、宿題はもちろん、授業の復習や計算練習、漢字練習等を自主学習ノート（いじりの子ノート）に取り組んでくる。しかしながら、まだまだ基礎的・基本的な知識や技能の定着、習得した知識や技能を活用する力などに課題が見られる。特に、国語の時間にさまざまな言語活動を通して身に付けた言語能力を、他教科の学習の中で生かし、活用していくことにも不慣れである。平成28年度の「全国学力・学習状況調査」の本校の結果は、平均正答率でみると、国語Aは全国平均と同じだが、国語Bでは5.1%と下回った。算数Aでは3.9%、算数Bでは4.9%上回り良好な結果が出ているものの、国語に関しては、やや課題があることが分かった。これらのことから、基礎的・基本的な知識や技能の定着や既習の知識を活用しながら問題を解決する力、これまでに身につけた力をさまざまな教科の中で生かし、自分の言葉で表現する力を育成していかなければならないことが明らかになった。

2 研究主題

思考力・表現力の育成

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の改善～

3 主題設定の理由

本校では昨年度、『思考力・表現力の育成』を研究テーマに、「算数科の問題解決型の学習における言語活動の充実」に重点を置き、よりのを絞って研究に取り組み、授業コーディネートを意識しながら実践を行ってきた。問題解決型の学習では、自力解決の場面で「算数コーナー」に掲示してある既習事項などが、思考力・表現力を助ける有効な手立てとなることが分かった。言語環境の整備によって、児童の学習が充実したものになったと感じる。

今年度は、これまで培ってきた算数科の研究を基に、さまざまな教科等の研究を進めていきたい。それは決して新しい方法や授業の形式ではなく、今までやってきたことを大切にしながら、さらに授業を改善することで「学びの質」を高めることである。各教科等の中で、「導入の工夫や学習の見通しを持つことにより、学習への興味や関心を高めること」、「自分の考えや思いを『書く』『読む』『発表する』『話し合う』などの言語活動を通して、積極的に表現すること」、「友だちや先生、その他の人々との対話、書物や資料などを通して、学習を広げたり深めたりすることができること」、「学習を振り返り、できたことや分かったことなど成果や課題について自覚したことを、自分の言葉で書くこと」などの視点で、授業を改善していくことで、児童の思考力・表現力の育成を目指していきたい。また、学び合いの基盤となる学級集団づくりについても、昨年同様ハイパーQ-Uで児童の人間関係を把握し、K13法で学級集団の改善方針を全職員で共有しながら、「確かな学力」を支える学級づくり、集団づくりを進めていきたい。さらに、家庭と連携して、家庭学習の習慣化も図っていきたい。

4 研究の具体的内容と方法

(1) 研究の具体的内容

- 各教科等における「主体的・対話的で深い学び」についての理論研究
 - ・先行研究等からの理論研究
- 言語活動の充実、言語環境の整備
 - ・全校の言語環境の整備
 - ・学校図書館の利用
- 授業改善、授業研究の実施、ティーチャーズノートを活用した授業づくり（授業の構造化）と授業案の作成……甲州市「確かな学力」育成プロジェクト
 - ・「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業研究を2回実施（10月と11月）

- ・一人一実践（研究授業者以外全員・5月中に実施日を決定し計画的に実施）
- ・全国学力・学習状況調査・県学力把握調査の学習学年一覧表の作成，活用
- 学習集団づくり（ハイパーQ-U調査の効果的な活用）……甲州市「確かな学力」育成プロジェクト
- ・K13法による結果分析
- ・ハイパーQ-U調査の結果をもとにした改善策の共有化
- 保護者との連携について……甲州市「確かな学力」育成プロジェクト
- ・「家庭学習の手引き」を利用した家庭学習（いじりの子ノート）の指導・活用推進
- ・学年に応じた学習内容の共通理解
- ・家庭学習の習慣化と学習内容を高めるための連携のあり方

(2) 研究の方法

- 全体会（理論研究，言語環境整備，いじりの子ノートの指導，授業研究，学級集団づくり，ハイパーQ-U調査の分析等）
- 個人研究（一人一実践）
- 実態調査（各種学力調査・ハイパーQ-U調査・学習アンケート調査）

年間校内研究計画

研究主任 遠藤香織

研究テーマ	教科領域等	担当者	学年	授業の時期	TC
①昨年度の研究の概要と成果と課題 今年度の研究のアウトライン	各教科等 授業改善	研究主任	全体		
②今年度の研究内容，研究計画の決定，	各教科等 授業改善				
③K13法による分析（1回目）	縦廻り	各ブロック長	ブロック		
④ブロックの研究テーマ，研究内容の決定	各教科等 授業改善				
⑤理論研究（「主体的・対話的で深い学び」について）	各教科等 授業改善	研究主任	全体		
⑥鹿島真弓先生学級づくり講演会	縦廻り	プロジェクト			
⑦市川伸一先生授業づくり講演会	授業改善	研究主任			
⑧ICTの活用についての学習会	各教科等				
⑨特別の教科道徳，外国語活動についての学習会	道徳 授業改善				
⑩授業作りに向けて いじりの子ノートの取組について	各教科等 授業改善	各ブロック長	ブロック		
⑪授業案検討会	教科は未定	中村弘和教諭	全体		
⑫第1回授業研究会	教科は未定	中村弘和教諭	5年	10月中旬	○
⑬盛山隆雄先生，細水保弘先生授業研究会	授業改善	プロジェクト	全体		
⑭授業案検討会	教科は未定	小林由紀子教諭			
⑮K13法による分析（2回目）	縦廻り	各ブロック長	ブロック		
⑯第2回授業研究会	教科は未定	小林由紀子教諭	1年		
⑰河村茂雄先生教育講演会	縦廻り	プロジェクト	全体		
⑱いじりの子ノート，言語活動の充実に向けて の取組状況について	家庭学習 言語活動	研究主任			
⑲直山木綿子先生講演会	授業改善	プロジェクト			
⑳ブロック研究のまとめ	各教科等 授業改善	ブロック長	ブロック		
㉑今年度の成果と課題	各教科等	研究主任	全体		
㉒研究のまとめ，来年度の方向性	授業改善				
㉓研究紀要作成	言語活動 縦廻り				

*上記のほかに，一人一実践が入る。

